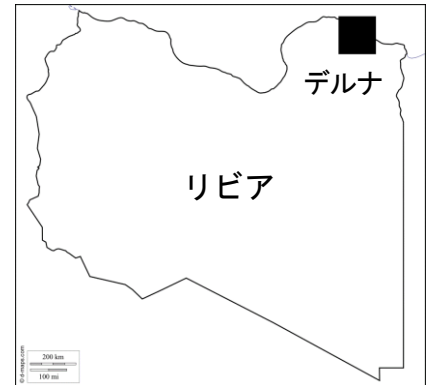




## エジプト・リビア：エジプト軍がリビアの「イスラーム国」拠点を空爆

2月16日午前（現地時間）、エジプト軍は、同日未明にリビア国内にある「イスラーム国」の拠点、軍事訓練場、武器庫を標的とした空爆を実施したと発表した。今次空爆は、15日に「イスラーム国」が発表した映像において、エジプト人コプト教徒（キリスト教徒）21名を斬首したことに対する報復であると説明された。複数の報道によると、リビア東部のデルナを空爆した模様で、空爆箇所は少なくとも8箇所にと上るといふ。デルナは、1年ほど前から続くリビアの無政府状態において、イスラーム過激派の拠点となった港湾都市である。



15日、「イスラーム国」の広報部門の一つ「ハヤート広報センター」は、エジプト人のコプト教徒21名を斬首して殺害する映像を発表した。映像内の主張はこれまでの斬首映像に見られたものと同様で、欧米諸国によるムスリムへの戦いの報復として「十字軍」の一味であるキリスト教徒を殺害する、という内容である。

リビア国内でのイスラーム過激派掃討作戦の中心的指揮をとるハフタル将軍は、エジプト軍の空爆について、空爆を強く支持すると述べている。

### 評価

エジプトのシーシー大統領は、コプト教徒斬首映像が発表された日の夜に国家防衛評議会を開催し、即座に今次空爆を決定した。リビアの「イスラーム国」を名乗る組織の拠点に限って空爆を行なったことから、エジプト軍側は、トブルク政府（シンニー首相）を支持する軍（「リビア国民軍」、「尊厳作戦」など）から同組織に関する情報を得ていたと推測される。エジプト政府はトブルク政府とリビア軍・警察の訓練で合意しているため、既に過激派情報の提供が行われていたのだろう。

今回の斬首事件に関し、注目すべき箇所は2つある。第一に、エジプトのコプト教徒を殺害対象に選択した理由である。まず、テロ対策に積極的なシーシー政権をコプト教会が支持していることが考えられる。エジプトは対イスラーム国有志連合の一員ではあるが、イラク・シリアへの空爆には参加していない。しかし国内でのイスラーム過激派掃討作戦には熱心であるため、今回の犯行は、コプト教徒殺害を介してシーシー政権に圧力をかけることが目的であったと言える。また、声明の中で「我々はこれからローマを征服する」と述べている点から、キリスト教徒＝欧米諸国の宗教＝十字軍の一味という漠然としたイメージにもとづき、コプト教徒を標的にしたとも考えられる。

第二に、今回のリビアでの戦果が、「イスラーム国」の中心的な広報機構である「ハヤート広報センター」から発表されたことも注目される。2015年1月以降、リビア国内の一部の過

激派が「イスラーム国」の州として「トリポリ州」などを名乗り始めたが、こうした組織の戦果は「イスラーム国」の中心的広報機構から発表されてはいなかった。しかし今回、「ハヤート」から発表されたことで、リビアの「イスラーム国」支持組織とイラク・シリアの「イスラーム国」との間に連絡経路が存在することが確実となった。

(金谷研究員)